

フレイを終え、OとOの真ん中の時間
すめられるままに休む。
尽きぬ話題、飛び出すホンネ。

志茂田 景樹

シモダ カゲキ

ツイッターのフォロワーが22万人！
先端のメディアで若者の問いかけに真摯に向き合う。
現代人の心の傷みをやさしく癒す一条の光、
それは72歳の直木賞作家のかざらない言葉だ。

おなじみ CLUB HOUSE MEMBER Dr.KAZ & OPEN 編集部

at 相撲茶屋 大塚(福岡市中央区高砂)

ツイッターのフォロワーが 22万人！

KAZ 志茂田先生は最近お忙しいんですよ、連載が始まっていて。

志茂田 そうそう、フライデーの人生相談ね。

KAZ 最近しょっちゅうテレビ出てるし。

編集部 携帯電話会社のCMにも出ていらっ

しゃいましたね。本当にお忙しい中、ありがと

うございます。先生のツイッター、今、ずいぶん

話題になってますね。今日は14時のZNA便

に乗るということもツイッターでつぶやいて

いらっしやう。

KAZ え？そんなちょこちょこできるの？

志茂田 ついさっきも10分くらい空き時間が

できたので、3つくらい質問に答えてました。

編集部 ツイッターということは、若い方の相

談が多いと思うんですが。

志茂田 僕のフォロワーは大体7割が10代か

ら20代、あとの3割がアラサー以上です。さす

がに50代以上は少ないですね。相談の内容から

推測すると意外と40代の中年男性っていうの

はいますね、悩みが多い世代なのか。

編集部 そもそもこういうことを始められ

たきっかけというのは？

志茂田 ツイッターを始めたのは、そんなに早

くはないんですよ。ケータイ小説の火付け役に

もなった内藤みかさんが出したツイッターの本

を読んでみて、面白そうだ、やってみようか

と思ったんです。そのうちにとりかかると、始

めるまでに数か月かかりました。最初は講演会

や本の告知とかだったんですが、なんかこれ

じゃつまらないなと思って。1400字以内とい

う制約があるけれども、なにかメッセージが発

信できるんじゃないかと。それで、自分が漠然

と思っていた事を書き始めたんですね。もしか

もしれないという気持ちもあって。そうしたら
フォロワーがどんどん増えて、そのうちに質問
がくるようになったんで、ちょこちょこ答えて

いたんですよ。そしたらそれが殺到してきたつ

てことね。でも多くの人は、他人の質問の内容

を読んで楽しんでる気がするんですよ。要す

るに、自分じゃ質問とかはしないんだけどど

ういうこと聞いてどう答えてるのか、それを楽

しみに僕のところ見てる人が多いみたいですよ。

編集部 志茂田先生、一時期バラエティに出て

いらっしやいましたよね。ある年齢以上の世代

にはあのころの印象が強いような。

志茂田 30代の半ば以上はそうですね。でもツ

イッターを始めて、そういう人たちも違う印象

を持ち始めたようですよ。今の印象の方がどち

かといえはいい印象なんですからね。

絵本の読み聞かせ活動

編集部 子供たちを対象に絵本の『読み聞か

せ』をしていらっしやいますよね。YouTubeに

もアップされています。この活動はどれくらい

になりますか？

志茂田 1998年の10月からですから、僕自

身が始めて14年です。翌年に「よい子に読み聞

かせ隊」がスタートしていますので、それから

でも13年経過してる。仕事で来た福岡のリープ

ル天神でサイン会をやったんですね。よそでも

サイン会には子供が混じっていますね。リープ

ル天神ではとりわけ子供の数が多かったんで

す。こんなに子供がいるのなら時間を作って

『読み聞かせ』をやるうってことで、福岡はその

スタート地点なんです。そろそろ通算で160

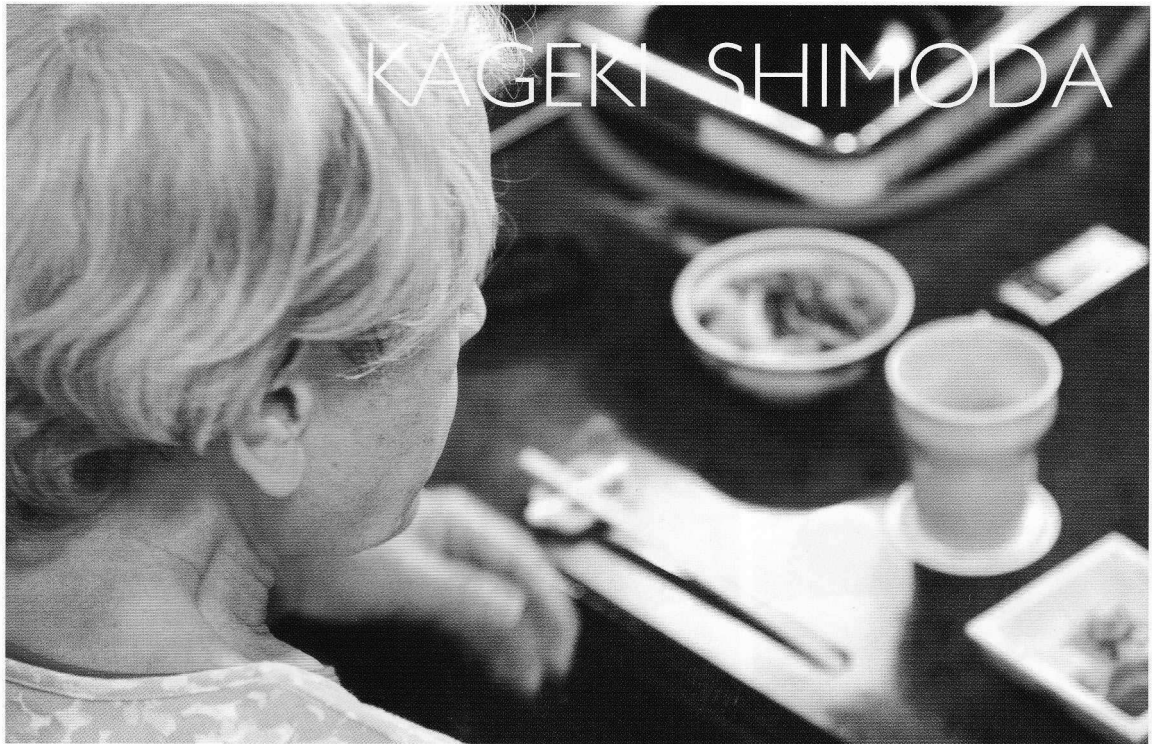
0回になると思いますけどね。

編集部 わあ、1600回！

志茂田 『読み聞かせ』を始めたころは、二十歳

前後の参加者たちに、小さいころ「笑っていい

とも」を見ていたのでよく覚えていたと言われ



ました。数年すると今度は「カブタック」で博士役やったのをよく覚えていて、と。そして2007〜8年くらいからは、二十歳そこそこの頃にクジャク系シリーズをよく読んだという女の子がお母さんになって来てくれましたね。それで今、二十歳前後の若い人は昔の僕ではなく、ツイッターで知った若い人が多いので、昔の先人観はゼロという人たちですね。

KAN なるほどね。
僕自身のファッションなので、どこであるうこのまま通す

編集部 福岡へは時々お見えになるとい話を聞きましたけど。

志茂田 福岡に限らず、九州はひと月に数回は来ますね。

編集部 どういうお仕事ですか？

志茂田 講演がほとんどですね。

編集部 先生の講演っていうのは・・・

志茂田 結構テーマはいろいろなんです。行政関係だと、昔は生涯学習が多かったんですが、今は男女共同参画、それ以上にここ1年は人権ですよ。

編集部 どういう方が聞きに来られるんですか？この格好で演台に立たれるわけですね。

志茂田 はいはい、そうですよ。

編集部 みなさんの反応はどうかと思つて。

志茂田 事務所出てから寝るまでが同じ格好なんで。要するにタレントさんが楽屋で着替えるのと意味が違うんだもん。僕自身のファッションなので、どこであろうとこのまま通すんです。

KAN そうですね。

編集部 何がきっかけでこういうファッションになったんですか？

志茂田 1986年頃だったと思えますけど、数か月間ニューヨークに行った知人が日本へ

戻って来たんです。彼女と立ち話的に会って、「これあなたなら似合うと思うわ」って渡されたのがこれくらいの薄い包でした。ちょうどその時、僕は都ホテルで缶詰めになって、ある出版社の長編小説を書いていた。それで、すぐに都ホテルへ戻ってその包を開いたら全く同じタイツが2足出てきたんですね。当時ニューヨークで流行っていたらしいんですが、マリリンモンローの笑顔がたっくんプリントしてある。全く同じものが2足で、当時の僕は「こんなもの履けるわけじゃないじゃないか。だいたいこれ、男は履かないだろー」って、そういう意識だったんです。だから、そのままボンとソファに放り出して、すぐ風呂に入ったんです。原稿に詰まると昼間でも風呂に入るんです。カラスの行水ですよ。風呂に入ってから、鼻歌の一つも歌ってばつと出る、ほんのちよつとの気分転換でしょうね。その時もそのつもりで風呂に入ってバスルームから出たら、ソファに投げ出したタイツのマリリンモンローが語りかけてきた。

一同 笑

志茂田 それで体を拭いて、なんとなく履いてみたんですよ。そして鏡を見たら「へー、かっこいいじゃないか」と思つて。その頃、ホテルに缶詰めになるときは、靴は4、5足、ジーンズは6、7本持つて来ていたんです。

編集部 ちゃんとコーディネート考えて用意していらつしたんですね。

志茂田 それでフロントに裁ちばさみ持つて来てもらつて、ジーンズの二つを切つて、タイツの上から履いてみた。それから気に入っていたTシャツを着て。そしたら仕事やるより外歩きたくなつて、都ホテル飛び出して、桜田通りって広い通りを歩き始めたんですよ。それ違う人がみんなぎよつとした表情になつて。そして3人連れの40代半ばの紳士とすれ違つ



1 志茂田 景樹

本名 下田忠男(しもだ ただお)。1940年生まれ。中央大学法学部政治学科卒業。セールス、探偵、保険調査員など転職を繰り返す。1976年に小説現代新人賞を受賞してデビュー。1980年に『黄色い牙』で直木賞を受賞。歴史小説、伝奇小説、スペクタクル小説など多彩な作品を発表する傍ら、奇抜なファッションも注目され、バラエティ番組などに出演した。1996年より、絶版となっている自著を「KIBA BOOKS」として復刊、同時に「よい子に読み聞かせ隊」を通じて、全国各地で読み聞かせの活動をしている。現在、童話・絵本も執筆、不登校の子どものための支援などの社会的活動も行っている。

2 Dr.KAZ

たんです。そのころはね、一流会社の社員はみんなバツ付けてる。で、一応紳士だから、すれ違った時ほんの一瞬表情を硬くしたけど、すぐに何食わぬ顔で通り過ぎて行った。僕は、「あいつらきつと立ち止まって僕を見てるぞ」と思った。数歩歩いて振り返ったら案の定、「後ろ指を指す」って言葉がありますけど、そのうちの一人はまさに後ろ指を指すついでう。

一同 爆笑

バラエティでは、求められるキャラクターを演じる?

志茂田 僕も落ち込んで、ホテルへ戻って普通の格好に戻ろうって決めたんですが、進むも地獄、引くも地獄、どうせだったら進んでやろうじゃないかと思ったら、だんだんとギョッとした白い眼向けられるのが心地よくなってきたんです。人間はうまいことバランス感覚ができていまして、いろんなバランスがあるんですが、サデイスティックなバランスとマゾヒスティックなバランスもあるはずなんです。また、何もかも破壊してしまいたいという願望になることもあれば、自分を悲劇のヒロインにしてそれを楽しんでうっとりしている場合もありますよね。人間ってそんなもので、その時はM感覚の比重が上がったんでしょうね。そんな視線向けられてそのたびにグサグサ心が傷ついてたら持たないでしょ。ちゃんと働くんですね、バランス感覚が。Mの比重が重くなる。だからそういう視線が心地よくなって、ずんずん銀座まで行っちゃって。それから変わったわけですよ。今日もレギンスですけれど、こういうのは僕のファッションの中軸ですから、ずーっと変わらないうちやう。

KAN タイツから始まったんですね。でもそのタイツをくださった人がすごい感性ですよ。でもまさか本当に履いてくれるとは思わずに

渡したかもしれない。2足も。でも女性ファッションとしてでしょうね

志茂田 もちろん。いくらニューヨークでも男性のファッションにはそんなものないですよ。結構ニューヨークは保守的な部分もあるから。

KAN 先生の素質を見ぬいていたんでしょ。ね、その方。そのサジェスチョンがなかったら今のファッションはなかったかもしれないし。

志茂田 あ、そうかもしれない

編集部 その頃は髪は黒かったんですか?

志茂田 そうですね、まあ相前後ってかんじです。ある女性が「髪を染めてみませんか? アメリカから直輸入したマニキュア液でいろんな色がありますよ」って言うんで、ちよつと興味持ってた。もともとブルー系が好きだったんで、コバルトブルー見て「じゃこれでやってみて下さい」って言ったのが最初だった。そのころはちょうど週刊文春が僕を密着取材していた時期で、髪の色が変わったというんで、8ページぐらいのグラビア特集したんですね。その1ページか2ページはカラーで、それをバラエティ番組のスタッフが見たんでしょ。一番初めは「元気になるテレビ」、それから「どちらさまも笑ってよろしく」にゲストで出ました。そして、「笑っていいとも」からレギュラーのオファーが来たんだけど、それは断った方が後の展開が良かったんじゃないかとも思いますが。バラエティ番組に出ずっぱりになって、誤解を与える感じになっちゃったから。その部分を今修正している感じですよ。とにかく「笑っていいとも」が分岐点になりましたね。今から考えるとやや暴走しすぎたかな。要するに、文を書く人間としては「いぶんいろいろ言われて、損な部分も多かったから」。

KAN うん、だから、そのみんなの誤解に出来る感じだったような気がする。

志茂田 うん、開き直ってそれでいいやって感



じ。人間の先人観つてホントある意味じゃ怖いね。ずーっと変わらない。それが変わったのがツイッターで、昔の若者が中年族になって「認識改めたとかそんなこと言ってるんですよ。」

編集部 人間がいかにビジュアルに左右されるかというのを身を以て感じられたのですね。

志茂田 そうですね。ブラウン管であろうがタブレットであろうが実物から遮断されるでしょ。それを見たま受け取るから、そこで先人観持ちますね。まあそれはそれで構わないんですが、僕はちよつとやり過ぎだったんじゃないのかな。

KAZ 私テレビ見る習慣がないから、実は先生に対して先人観はなく、本も当然読んでないし。ただ名前と様相は知ってた。だけど逆に、昔の映像見て「あれっ？」って。これかなりサビス精神旺盛だな、見るみんなの期待に応えるようなことやったんだなって感じ。

編集部 気を使う人ほど期待に応えようという気持ちがありますよね。

志茂田 うーんそうですね。僕はバランス感覚はあつても、どちらかというとM感覚の方がもともと高いんで、そういう意味ではバラエティに出すつばりの頃ははじめていたと思いますよ。他のタレントさんたちは商売ですから演技の部分もあつたと思うけど、僕はそのままの自分でやっています。

テレビに出ていた2年間ぐらいは、バランスがうまくとれていましたね。そのころは原稿書きの時間もなくて、カセットテープレコーダーに吹き込む形でこなしていたんですけども、どういうやり方であろうと原稿を書くというものは、自身の心に詰めていって、心の中で葛藤させる作業なんです。それやっていると、なんかストレスがたまるといふか。それが高じて自殺したりおかしくなる作家がいるんですけども、あのテレビのバラエティは自分をばつとさらけ出

して笑いをとって、それでいい感じでバランスが取れてきたんですね。でもそのうちに、原稿もこんな感じで書いていいだろうか、バラエティもこれでいいだろうかとどっちも疲れてきたの。その時に転機があつて、キバブックという出版社を立ち上げて、全国サイン会ツアーみたいなことやつて福岡にも来ました。それがさっきの話言うリープル天神のサイン会というわけなんです。

創作活動の転換期

編集部 先生はお仕事柄、外食が多いのではないですか？

志茂田 多いですけども自宅では結構自分で作ってます。基本的には僕は玄米食なんですけど、家族は玄米食ではないから、自分で炊けばいいと鉄なべで炊いています。でも福島の事故が起きてから、玄米じゃなくて五分米食べています。東日本は今、放射能汚染の恐怖が全体にあるのは事実ですね。

編集部 そういう大きな事故とか事件っていうのは、先生の創作活動に影響を与えているんですか？以前、サカキバラ事件のことも本にしていらつしやいましたね。

志茂田 はい。あの頃はフリースクールの特別講師をやつていましたが、当時はほとんどがはじめを受けて不登校になった子供たちが来ていました。あと2、3割は普通の学校では受け入れられない情緒不安、情緒障害児ですね。サカキバラ事件の少年は、ある意味でいうとじめめは受けていないんですけども、やつぱりどこか浮き上がつて排除されてたんですね。その鬱憤みたいなものかなりあるんです。もちろん家庭環境とかいろいろなものも関わっているんですよ。変な風な吹き出し方しちゃつた。

編集部 先生が子供たちに「絵本の読み聞かせ」の活動をしていらつしやるのはそういう

事件も背景にあるのかなど。

志茂田 そうですね。それから数年後です。『絵本の読み聞かせ』を始めたのが。

焼酎との出会い

編集部 お酒は焼酎がお好きなんですか？

志茂田 そうね30〜40年前は何でも飲んでましたけど、20年前からは日本人には泡盛も含めて日本の蒸留酒が向いているなと思つて。パーティーでも初めの1杯は生ビール付き合つたりワイン飲んだりしますけどね、基本的にはすく芋焼酎か泡盛ですね。

KAZ そうなんだ、じゃあ偶然ですね、私が先生にいつも焼酎を差し上げてるのは。

編集部 焼酎との出会いって何かあつたんですか？

志茂田 それこそ学生時代にひどい焼酎がありまして。当時、東京には九州の焼酎はそんなになかつたんですね。本格焼酎ではなく、醸造用アルコールを薄めただけの。だからとても飲めるような代物じゃなかつた。学生時代は合成酒もありましたね。3合飲んだら気持ち悪くなるの。安いからつてたくさん飲むと必ず悪酔いする。

一同笑

編集部 じゃあ、どこかでおいしい焼酎に出会つたんですね。

志茂田 やつぱり九州だと思いますよ、保険の調査員やつていた時代もあつて。

KAZ はい？

編集部 そうですよ、いろいろなお仕事をされていて。

志茂田 保険の調査員は2年間もやつてなかつたかな。九州に来て「お酒どんなのあ

る？」っていうとどこ行つても「焼酎」って。

編集部 九州は、酒つていうと焼酎。

志茂田 やつぱり福岡だったかな。芋だったか



どうかは分からないけども、飲み屋さんに入っ
てやっぱり焼酎があったので、まずい焼酎のイ
メージがあったけど当時ストリートで頼みま
した。そしたら意外と飲めるんですね。それが
きっかけかな。

「ひととは色々だ」って 子供のときから思える感性

編集部 そういえば保険の調査員の前は探偵
もなさっていたとか。

志茂田 そうね、いろいろ職も変わって探偵も
やってた！当時から浮気調査も多かったです
よ。あ、尾行するときね、こんな格好でも全然大
丈夫よ。

KAN え？そうなんですか？なんで？

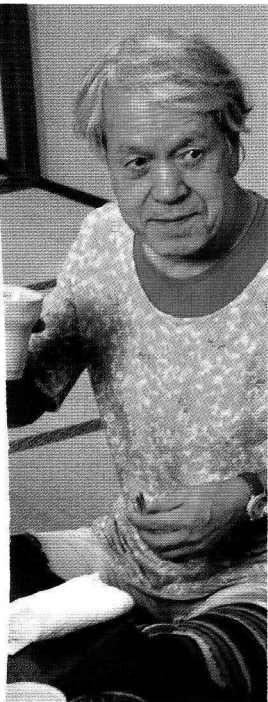
志茂田 目が合わなきゃいいの。だから尾行す
るときなんかの拍子に相手が振り返って目が
合うと、えらく地味な格好でも「なんだあい
つ」って。

KAN 目が合わなきゃいいの？

志茂田 地味な格好でも目が合ったら怪しい
の。こんな格好でも相手の足元あたりを見なが
ら尾行すれば、振り向かれても全然怪しまれな
い。派手、地味は関係ない。

あ、一度尾行した時に渋谷の雑踏に入っちゃっ
て、ハチ公前で見失って、「いや〜これは戻った
ら怒られるな」と思って報告したら、案の定も
のすごく怒られた。「お前、馬鹿だ！」って。でも
「まあいいよ、そんなことだろうって思ったか
らお前の後ろにちゃんとツケてた」って。

一同 大爆笑



編集部 一部ですが、先生の著書を読ませてい
ただいて思うのは、純粋な青年の向上心という
か、未来に燃える気持ちみたいなものをテーマ
にして書いていらつしやいますよね。「黄色い
牙」「蒼翼の獅子たち」とか。

志茂田 うーんとそうね、特に意識はしてない
けど、どちらかと言えば、純粋を貫いてほしい
という気持ちがあるんですね。要するに自分
自身は純粋を貫けないでしょ。だからそういう
想いが主人公に注がれるというか託されるん
だと思えますけどね。

編集部 先生の、「後ろ指を指されながら」もこ
のフアッションを貫いていらつしやるとい
うのも、その一環だという気がしますね。

志茂田 そうだと思えますよ。同じ自分じゃな
いのかなと思えますのでね。意外と自分は変
わっていないんですよ。たぶん小中学校時代か
ら振り返ってみるとあまり変わらないう
KAN もの心ついた時からね、そんな気がする。
私自身もそんな気がするもん。

編集部 自分の想いに正直にいようという気
持ちはずーっと貫いてらつしやる。

志茂田 はい、きれいごとだけじゃなくて、た
ぶん自分のどろどろとした汚さの部分も含め
て、ずーっと来ているのかなという感じはあり
ますよ。宿命という言葉はあまり好きではな
いけど、粹を広げた中でこうやって泳いでるの
かなっていう、そういう意味ですよ。

編集部 そんな風にちゃんと言葉で説明して
くださるとは…私は先生のこと、「作家先生」と
いう意味で、達観した方なんだろうなと思っ
てました。

志茂田 達観？いやいやそんなもん、死ぬまで
達観するわけじゃないですか。死ぬまで煩
悩があった方がたぶん楽しいと思えますよ。

KAN 達観したフリしてる大人って多いよね。
悟ったふりとか達観したフリして、結局は怠け

てるっていう。ちゃんとまじめに自分の生まれ
てきたことかを考えずに悟ったフリ、達観し
たフリして怠けてる人いっぱいいますよ、大人
でも。

編集部 自分で自分の感受性に蓋をしま
うというか。

KAN まじめに考えるのがカッコ悪くて、いつ
もご機嫌で明るくしている方がかっこいいと
思って、まじめに考えていない人は多い気がす
る。確かにそんなにまじめに考えると生きにく
いんですよ、この世の中。「あの人、変わって
る」ってなるじゃないですか。本当に自分が考
えていることをうかつに伝えると、友達失くす
というか。

編集部 先生は、もつとめっちゃめっちゃオーラ
あつて…と勝手にイメージしてました。

KAN 全然違う、静かな人ですよ。先入観がある
とイメージ違うかもしれない。静かな人だよ
ね、人の話もよく聞くし。自分勝手な生き方し
てるようだけど、実はすごく気をつかっている
ですよ。周りに。一般的にあんな個性的な格好
をする若い子と違って、自己中人が多くない
ですか？

編集部 外観と自分の行動を合わせる感じ？

KAN だけど、言ってしまうとあんな年齢であ
の恰好ですごく個性的なんだけど、自己中じゃ
ないでしょ、先生。私が先生大好きなのは、こ
んな格好してるけどすごく誠意があるし、芯があ
るでしょ。信念は揺れてなくて、だけど自己中
じゃなくてちゃんというんなことに配慮がで
きる。みんながそれ出来たら、本当に自由にな
ると思う。

志茂田 僕の髪の毛、鬮児は素直にさわってき
れいな髪の毛って喜んでくれるんですよ。日
本でも子供の頃から、ひとはいろいろだって感
じる方がいいかもしれないですね。

Open 編集部